

福澤 諭吉立案  
中上川彦次郎筆記

全編全書  
舌言先

男女天際論全編  
三言先

明治十九年六月出版

序

人ノ世ニ在ル往來交際セザルベカラズ往來交際セザレバ社會存スベ  
カラズ社會存セザレバ人間無キナリ往來交際ノ重要事タル又多言チ  
要セザルナリ然ルニ古來我日本國民ガ世ニ處スルノ法ヲ見ルニ曾テ  
往來交際ノ重ンズベキヲ知ラズ單獨離居シテ自カラ喜ブ者滔々皆然  
ラザルハナシ近年西洋文明ノ風ヲ慕ヒ漸ク往來交際ノ忽ニスペカラ  
ザルヲ悟ルト雖ニ此往來交際ヤ單ニ男子ノ間ニ限りテ未ダ女子ノ間  
ニ及ブコナシ况シヤ男女兩生ノ間ニ於テナヤ夫婦以外男女相見ルヲ  
許サレズ相語ルヲ許サレズ相往來スルヲ許サレズ隨テ世上百般ノ人  
事澁難曲屈名狀スベカラズ國ノ不幸コレヨリ大ナルモノナカルベキ  
ナリ我輩常ニ爰ニ慨スル所アリ今回「男女交際論」一篇ヲ草シテコレヲ  
連日ノ時事新報紙上ニ分載シ廣ク世人ノ注意ヲ促ガセシガ尙ホ展讀



ノ便チ謀リコレチ一部ノ小冊子ト爲シテ更ニ同好ノ人々ニ頒ツ若シ  
一讀ノ榮チ賜ハラバ幸甚ナリ明治十九年六月四日東京日本橋時事新  
報社樓上ニ於テ中上川彦次郎記ス

## 男女交際論

福澤 諭吉 立案

中上川彦次郎 筆記

西洋文明の主義漸く日本國々入りてより世の人も漸く人間交際の大  
切あることを合點しく親戚朋友同業同國同學同志など様々の縁を以  
て相互々往來亥時と定めて集會亥又或ハ臨時に懇親の酒宴と開くが  
如きハ近年の流行に玄て即ち人間交際の道の開けたるよとなれば我  
輩の最も喜ぶ所なれども唯尙ほ遺憾あるは此交際あるものが獨り男  
子の專にする所と爲り男子と男子との間に行はるゝのみに玄て婦人  
と婦人との間には甚ざ淋したる一事なり畜ニ婦人の仲間ニ淋しきの  
みあら走婦人と男子との交際に至りくわ殆んぞ絶へて無くして偶々  
これあれば世よ怪しまれ人に咎めらるゝ程の次第なりとは實に文明

のため又歎かわしき事共に玄て斯くて之日本の文明もいまざ以て誇るに足りざるものなりと我輩が一度びは喜び又一度びは憂る所あり抑も男女交際の大切ふして是をあれば人々の一身一家又一國の幸を進め是れなれば言ふ可らざるほどの不幸憂苦と致す由理由は其言甚だ長くして一大部の著書を成すべしと雖とも今茲には唯新聞紙上に兩三日の社説欄内と假りて其大畧を述べ以て大方の數を乞んとするのみ

男女兩生の事を支那人が陰陽と名づけたるは如何ある意味か其陰陽ある文字の義が甚だ漠然たるゆゑに男女の性質も之に由りて明に判断し難し或と儒者流の書を見きば陰陽の義と男女の性又引當てゝ剛柔智愚明暗などの標とあし男ハ剛なり智なり明なり女ハ柔なり愚なり暗なりとて兎角又男子と尊で婦人と卑玄むの口實又用ひたるもの

多しと雖ども固より謂色もなき妄想説又しく確なる證據あふざれば人と服せしむるに足らず故に我輩が今西洋流ふ從ひ物理學上の事相と借用して比喩を設れど男女兩生の性質は電氣の消極と積極との如きものにして同名(子ガチフ)消極と消極と又積極と積極とは相衝き異名(子ガチフ)消極と積極とは相引くの動あるふ似たりと云ふ可し、物理學の初步を學びたる人はよく知る所あらん電氣の消極と消極と接し積極と積極と接すれば互々衝放して近づくことなく消極と積極とを接そきば忽ち相引て離れざる其趣は男生と男生と接し女生と女生と接しても相互に優しき至情と通すること能はずして云はゞ相衝くの動あるに似たれども男女兩生相接するとき忽ち相近づき相親みて其間に無限の情あるものゝ如し即ち同名ある男男又女女ハ相衝き異名なる男女は相引くに實を見る可し(情の字又就て以後に説あり單に肉慾の義に解)

れ心の男子も亦これある可きは辨と俟たず玄て明なり即ち婦人が男子に接して未だ共に語らず笑はず先づ其容貌と見ても南風は薰するが如心地そるは男子の天香に感するものと云ふべし

左れば人生至大至重の關係は男女の間に在りて合へば則ち和し離れば則ち懲る其離合の自由不自由より玄く生ずる所の利害と一身一家に關し又社會一般に關して廣大無邊のものさらざると得ず然るに古來今に至るまで和漢東洋の學者が此大切ある問題に論及しるふとなく玄て之と等閑に附したる學者の責任として其罪免くる可らざるあり

男女相接玄て其情と和するの次第と前節よ其大意と陳べたれども今その反對にして之を双方各別に分ち置く。どきり如何ある事相を生むべにやと更々之と吟味したらばよそく其關係の重きと發明するよ

足る可玄人類の姑く擋き禽獸に就て之と見るに前に云へる如く其鳴くや和玄て其戯るゝや樂しきは雌雄牝牡の群あれども今數十百頭の犬の群を二分して牝は牝をかり牡は牡ばかりに同居せしめたらば如何なる可玄や仮令へ食物とば十分よ與ふるも其樂しまざるは勿論、時に或い咆哮して相害するよ至るべし、犬に玄て此の如くなきば鷄も亦然るべし、牛馬も亦然るべ玄、野馬の牝牡雜居玄て群と成せるものは陸玄けれども家飼の牡馬のと一區内に放つときは鬪はざるものなし以て其性情の機と視察するよ足る可し、牛馬鷄犬より以上人類の男女に至りても性情に異なるものなれど其事實と示さんに封建の時代よ於て折助部屋勤番小屋と云ふが如心の男子はその群居する處に玄て其風俗は粗暴にしそ言語舉動の殺風景なること往々見るよ忍びざるもの多し而して其輩は出處と尋乞ば諸藩地の領民と藩士にしそ郷里の家

する勿れ)

蓋し男女兩生相近づくの情は人類に普通なるのみあらず禽獸草木苟も生あるものは皆然らざるいなし禽獸の群と爲す必ず雌雄牝牡の相伴ふあり草木の森々たる自ウラ其中より兩生の相接する所り禽獸の兩生相伴ふときハ其鳴くや和して其戯るゝや樂しきが如玄進化發達の不完全ある動物に於ても尙且然り然ると況んや萬物の靈たる人類又於てとや男女相接して和氣春の如く心情悠々として殺伐の圭角を鎔解し兩氣滑らかに相通亥て相互より近づく其慟の微妙なるは恰も電氣の消極と積極と相逢ふて慟の平均を求めるの状よりなら走手近くあれと實際に照らし見るに上流男子の集會又宴席等に婦人の參るあれば自から其會席の空氣を和暢亥殺伐又昇らむ沈默又陥りず戯れて乱色す話して争はず言ふ可らざるの中より無限の快樂と覺るは世人の既よ

普く知る所ふして我輩も常に人の言ふ聞く所あり但し是れは男子と主として男子の席に婦人あれば云々と述べたる言あれども男子が婦人のために和毛れば婦人が男子のさ先に和するの状も正しく同一様ならざるを得ず婦人の會合にも男子の其席より在るければ自から快樂和暢の情と催ふし苟も男子の談笑優しくして女生の禁句に觸るゝが如き殺風景なきに於ては其一談一笑も耳目に快よからざるはあし或は未だ談話笑語ふ至らずして單に其姿を目撃しても南風の薰るが如く以く女生の體と解くに足るべし、男子が婦人と親愛するの餘りに女体には一種の薰ありとて之を天香と名くるものあり或い生理上より論じても婦人の体质は男子に異にしそ自ウラ一種の蒸發のために然るあともあるべしと雖ども其蒸發氣の香しきと臭きとふ論あく唯一片の愛心以て女子身邊の空氣を天香ならしむるのみ婦人に天香あ

に在をば必ずしも亂暴人にあらざれども去て都會ふ來りて純然たる男子の群と成すときは忽ち其性と變じて或は博奕に喧嘩し或は酔み乗じて激論爭鬭をる等殆んど人間交際の潤飾と脱し去るが如き其原因他にあらず單に男子の群中婦人亦が故なりと云ふざると得ず或は今日に於ても相撲力士は部屋にく附合の殺風景あるも其一例ふして又彼の海陸軍人に限りて特に法律の嚴あるも其氣と制するがさめ止むを得ざるに由でたるものならん又一個人に就て見るに男子年長にして品行清潔と稱せる者が日本古來は習慣ふて婦人と談笑遊戯の交際甚ざ稀にして此高尙清潔ある交際より一步と下れば花街柳巷の不品行と犯すより外に情と恩の方便と得ず左りとて自ら忍びざる所なりとて進で醜行と犯すを得ず退て鬱憂を洩らすに地なく、乃ち遁路を酒に求めて遂に自ら健康を害するに非ざをば身を木石の如くふをば叶へざる事なり

玄て世と相背き變人奇物<sup>へんじんきぶつ</sup>は名を取る者多矣故に我日本國の男子みて妻を娶ること晚き者又は既婚の者にても動もすれば花柳の醜行に陥るは其原因様々ありと雖ども社會の男女高尙の交際に乏しきの一事も亦與かりて大に力あるものと知る可し苟も今の殺風景ある社會又居り畢生その品行を清潔にして俯仰耻る所あく然クも其精神洒落にして能く世と浮沈する者は心身の天稟非常に剛毅なる人物に非ざをば叶へざる事なり

男生と女生より引離すの慘狀斯の如くなれば女生として男生に離れしむるの害惡も亦然ふざるを得ず婦人れ群居の著しきものは封建時代諸侯の殿中を以て適例に引くべし、無數の婦女子上下の別あく之と一群として奥向と稱する區域内に閉籠め一切外出を禁ずるのみか公用の外は男子と言語を交ふると許さず况んや談笑遊戯に於てとや堅

き家法は嚴禁ふして犯す者は罪あり甚ざしきは終歲男子の姿を遠目に見ることさへなきほどの次第に志て其外面へ甚ざ行儀よきが如くふ見ゆきども其内實の言行に至りては醜体厭ふべたもの多志他人の見る處にてよそ坐作進退も優美なれども此美婦人等が内よ群と成して互に遠慮あた場合又於とは其一言一行意想外の嬌醜を恣にしたまく男子が竊に之と聞見をることなれば蔭あがら赤面志て覺へず汗を流がすもの多きと常とす啻に日常言行の嬌醜あるのとあらず其心志陰險獰猛に志て人を憐むの情み乏しく俗に所謂人情知らざとも評す可きか己れと推して他人の喜憂を察をるが如きは此輩に向て求む可らざる所なり彼の一生奉公と稱しく處女の時より殿中に仕へ、殿中又成長して殿中に老大しる者を見るに其氣風一種特別の變体を現は玄て優玄きが如く、殘忍なるが如く、臆病なるが如く、果斷なるが如く

にして傍より其喜怒哀樂の發機を察すること甚ざ易からず或ひ此種は老大處女ダ故ひりて殿中を去り尋常一樣の人間世界に出るまとあるも骨に徹するの習慣は終身脱する能はずして苟も居家處世の交際と全うして能く自から樂しむ者の少なきと世人も常に注目志て知る所の事實なり固より徳川の政治二百五十餘年の久しう三百諸侯の多き其奥向は女中に賢婦人もありしことならんと雖も鐵中の錚々として大多數の事實と蔽ふに足らず我輩の見る所を以てすきば封建諸侯の奥向は婦人の折助部屋又勤番小屋と明言して妨めなむが如し畢竟するよこの慘状は原因は女生と男生と離隔し群婦人を志て男女交際の南風ふ浴をると得せし先ざるれ大歎典に在りと云ひざると得ざるなり

男女の關係は人生に至大至重のものあるよ古今東洋の諸國に於く曾

く其利益を論じたるものは學者等閑のみならずたまく論及することあきば却て此利益を害せんとするもの多きは寧ろ學者に罪と云ふも妨みが如し蓋古數千年來男女無縁殺風景なる習慣を成して人の怪しまざる今日又於て遽に其議論の端を發きたらば必ず世間の耳目と驚か玄て不平と鳴らす者も多からん且て問題と口にし筆にする頗るむつろしき事あれども言はざれば際限もなし故に我輩は敢て今の世論と憚らざるのをならず古人の教と稱するものに對しても遠慮あく論破せんと欲する者なり抑も古人の古代未開の世に出で、其未開人に相應そべき教と立てたる者あるが故ふ其時代に在ては其教も亦便利にして或はこれと世教とも名けざるあとあらんれども世の開けて人智の進むに従ては後世の學者が様々に説と附けて此世教と潤飾改良し以て其時々の人心に適當せしむべき筈なるに左

はなく玄て唯一心一向に古言を死守し毫も活用の働くきは甚だ遺憾なる次第ふもぞあれ竊々案するふ未開人とは今に田舎漢か小兒の如く其心の働く簡単無造作として種々様々入組たる事と勘辨するの力あく例へる目の働く舌の働くても黒きと白きと甘きと苦きとを區別玄て黒うらざれば白く甘からざれば苦しと合點するに等しく心れ働くても善惡邪正等と區別して善ならざれば則ち惡なり、正ならざれば則ち邪なりと其間に恰も一直線の界と定めて窮屈よ之を守るのみにして其善と惡と正と邪との間に無量無限の働くあるを知らず是よりてか當時の聖賢なる人物が教と立るにも能く其時代の人心と察し逆も入組たるふとを説くも合點せる者なうるべしとて簡單至極ある言を以て之に論したるものあらん例へバ聖賢は言に道二つ仁と不仁とのみと云ひ、利を先よして義と後にすと云ひ、君子は云々小人ハ云々など

云ふ其語氣を察するゝ仁ならざれば必ず不仁、利を言ふ者は必ず義と知らず、君子ならざれば必ず小人なりと斷定したるものゝ如し其主義甚ざ簡單明白にして小兒に等しき未開人民には適當矣たらんと雖も聖賢死後て後幾千百年、世の中は次第々開け行くふも拘はらむ後世の學者が其教を改良することしば謀らずして鐵石の如く之と守るのみかます／＼其主義に附會して議論常々極端ふ走り以て開明の人事を誤るもの多く人の一言一行を評論せるにも孝ならざれば不孝と云ひ忠ならざれば賊と稱して其間に一毫の餘裕をも許さるが如き古來今日まで我輩の往々聞見して悦ばざる所のものあり古今學者の局量の狭きこと斯の如し故ふ其男女の關係に就て説を立るにも亦常例の筆法を用ひ古の聖賢が夫婦別居り男女席を異にするにも此教を守しなど云れたりとて其文字のまゝ不解玄て千年も萬年も此教を守

ふんふと人々勧むれども人事進歩の活世界果して其勸告は如くよ行はれざれば則ち之と世の澆季などと稱玄て竊に怒る者多玄蓋し此輩の腦中には唯貞寢と婬亂と二様の思想あるのとくして其間に些少の餘裕を與へず貞ならざるものは婬なり、婬ならざるものは貞なりとて貞と婬との中間その廣きこと無限の際に無限の妙處あると忘れたる者なり是れ即ち古今の學者の大なる心得違に玄て一度びよの迷ふ陥ると凡て人間社會百般の惡事皆これより生せざるはなし請ふ試に鄙見の大意を陳べん元來男女の交際には二様の別あり之に名を下させば一と情感の交、一と肉体の交とも云ふ可きものあらん肉体の交とは文字の如く兩生の肉体直接の交にして人間快樂の中にても頗る重きものなり然りと雖ども爰に一步と進めて其交際は全体と視察し裏より表より其微細の事情と吟味するときの男女の間柄は肉交のみを

以て事と終る可きものに非ず殊々人文漸やく開進に赴き人の心志を用る區域漸く廣まりて心事漸く多端なるに至れば情感の馳せる所も亦廣く且多端にして男女の交際單ふ肉交の一事が止まる可らず双方相互小説を以て交り文事技藝と以て交り或は會話玄或は同食する等同生相互の交際に異あらずと雖も唯その際に微妙不可思議あるい異生相引くの動に玄て双方の言語舉動相互ふ情に感ヒ同生の間なれば何の風情もあき事にても唯異生なるがた先よ之と聞見して快く一顰一笑の細に至る迄も互に之に觸れを千鈞の重きと覺へて言ふ可らざるの中に無限の情を催ふす其趣と形容すべきは心匠巧ある畫工が山水の景勝又遇ふて感動し一片の落葉一塊は頑石も其微妙の風韻ハ他人の得て知らざる處に在て存するもの、如玄即ち是れ男女兩生の間ふ南風は薰るものにして之を名けて情感の交とは申すあり扱その

情交の濃なること斯の如くにして一方の肉交は如何と云ふに固より重んむる所のものあれども肉交必ず玄も情交又伴ふを要せず、兩様の間甚ざしき距離あるものにして各獨立の動と爲すのみならず其性質を吟味すれば肉交は劇又玄て狭く情交の動は寛にして廣く而して人間社會の幸福快樂を根本として兩様の輕重如何と問ふ者あらば我輩は其孰れと重しとし孰れと輕玄と玄と容易に答ること能はず唯兩様ともふ至大至重にして其一を缺く可らずと答へんのミ

情交と肉交との要用を男女は天性に存せるもれふして其區別の分明あるにも拘はらず古今の學者が之と輕々しく看過玄て曾て一言の之又論及しあることあく其所見は唯肉交の部内に鎖込められて他を顧るの餘裕を得ず往古の聖賢が男女の間柄と正しくせよと教を垂れたるを聞傳へ又讀傳へて男女の間柄と内交の事なり之と正しくせよ

とは姪乱と防げとの事あり然らば則ち男女相近づく可らず夫婦の外面親玄くす可らず云々とて種々様々の言を口にし又筆にて其實際ハ大のある情交は發達を妨へながら之と世教の主義と名け國の政治又發亥ては法律と爲り民間に傳へては風俗習慣と爲り尙や其上又も男尊女卑の弊風中に得々として其世教の鋒先きは獨り婦人の方又向ひ獨り婦人をして鬱憂の苦界ふ沈ましむるのをあらず男子も共々情交の快樂を失ひ以て今日は無情殺風景ふ立至りて文明開進の歩を遅々たらしむるものは畢竟學者の不明に玄て情交と肉交との區別を知らず男女の關係を論ずるふ都て肉交を根本にして立言したるの罪あり學者の一言一論は千歳を誤る我輩は返すべくも和漢の古學に向て不平を鳴らさるを得ざるあり

情交と肉交と各獨立して各その衝と逞うし甲者必ずしも乙者に伴ふ

を要せずとの事實は開明化人民よ於て最も明白なりと雖ども仔細より動物の性情を視察るとたゞ如何ある野蠻草昧の人種よりも肉交と外々して情交の見る可きものあるのみならず禽獸の中に於ても尙ほ且情交の存する所あるが如玄家畜野生の別あく雌雄牝牡の陸じきは人の常に見る所にして或は其然る所以は彼等が相互に交りて肉慾を逞う玄其快樂のたれに自から親睦の情を生ずるが故なりと言ふ者あり此言固より是あるよ似たれども又一方より案するよ禽獸には孳尾の定期ありて其定期の餘は全く肉慾の發するよとおし又廐の内に二三の牡馬を同居せ玄むるとき必ず鬪へども牝牡廐と同うそる者は廐の内にて曾て孳尾するよなしと雖とも常に和して甚だ樂玄きが如玄雌雄牝牡の親和果して單に肉交は愛のみふ由るものなりとするとき孳尾定期の外は其親愛も衰へ廐に同居する牝牝馬も殺伐な

ること牡馬と牡馬との如くなるべき筈なれども其然らざる之禽獸の和合必ずしも肉慾のみふ原因するに非也唯それ生と異にするの故を以て自から情感の相通するものあるを知るべし或は之を禽獸の情交と云ふも可ならん又禽獸にても野蠻の人類にても肉交を通するに兩生相互に其配偶と擇ばざるはなし人類ふては形体のみにあらず双方の氣風言ふべからざ普通ふれども又必ずしも形体のみにあらず双方の氣風言ふべからざる處に微妙の引力と存し例へば夫婦にても醜男美人と娶り醜婦美男子と婚せるありて俚諺ふれを評して縁は異なるものと稱す蓋玄禽獸の醜美氣風は我く人類の細み測り知る所にあらざれども必ず一種の好惡あるや事實よ明白なり俗に之と毛惚毛嫌と云ふ今人類の男女禽獸の雌雄牝牡其相親しむの關係の唯一片の肉慾ありとせる時は其配偶を求るゝ何ぞ醜美氣風の如何を問はんや何ぞ毛惚毛嫌の好惡あら偶を求るゝ何ぞ醜美氣風の如何を問はんや何ぞ毛惚毛嫌の好惡あら

んや然るに實際に於ては其反對の相を現はして人畜共よ此一點に穎敏あるは何ぞや兩生相引くの親和力は偏に肉慾の邊にのみふ在りざるに證として見る可玄

右は人畜に普通なる事實あれども單よ人類のとに就て見れど更に著しき者あり前に云へる如く禽獸の肉慾と發せるは年に定期ありて人類にはこれあるを見ず蓋玄人身の本來を察それば發慾の定期あきよ非ず唯禽獸の期ハ年に定まり人類の期ハ月に定まるの別あるのみ婦人の月華は卵子の卵巢と辭する時の現象として毎月に定まり胚胎は其當分ふ在るの約束ふして即ち發慾の定期あれども人類知覺の發達は特別非常と玄て其情も亦隨て種々様々に錯雜玄彼の禽獸が偏に天然と支配せらるゝが如く單一なるものふ非也して時としては能く其天然と反し又天然と制すること自由自在あるが故に生々その習慣と

累ねて性質となり肉慾發生の定期をも破りて今之如く素れたりといふ以上に進化學は説にして此の説果して無妄なれば人類の力は既に天然と制して發慾の定期を破りたり能く之と破るの力ある者は亦能く之を忘るゝ力もある可し、取るふ自由あれを捨るも亦た自由あり故に裏面より言と立れば肉慾の力は禽獸と制するに強くして人類に向ては特に然らずと云はざると得ざるなり人類の慾焰これと禽獸に比えて果して緩なるものとするとき其男女の關係も偏ふ肉交の關係のみに非ずして情交の慟と許そに綽々然として餘地ある可きハ誠に睹易きの道理ならずや是れ即ち人類の特に禽獸ふ異ある所にして之れと名けて萬物は靈と云ふも亦偶然にあらざるあり之と實際又證するに古來支那の帝室に宮女三千れ語あり日本にも封建の時代には大名高家に婦人を養ふふと甚ざ多矣、主人一身の周圍五六十幾百の侍

妾侍女あるも肉慾を慰るの一段に至りて其婦人等の大數は殆んど無用のものと云ふざるを得ず又今の世間の少年等が藝妓を買ふて愉快と取り兒女子が俳優藝人を愛するも稀有の場合を除くは外は必ずしも直接の肉慾に促がさるものにあらず左れば古來和漢の王公貴人が無用の婦人を養ひ世間の少年兒女子が肉慾のためならず爰て男之女を近づけ女ハ男と愛するは即ち是れ兩生固有の天賦、異名相引くの性と玄て情交の實際ふ現はれたるものと明言して可なり人生草木の花を觀ても尙ほ且つ目と悦むしむるに足る況んや男女相見るは情に於てかや其愛を可きや花にして笑語する者に異ならむ解語の花との男子が美婦人と評したる語なきども婦人の目を以て男子を見れど等しく解語の花にあらざれむ有情の松柏あるべし故に兩生相引て相悦ぶの情は天然の紅花綠葉と觀て悦ぶの情に幾段と加へたるものに

玄て其輕重厚薄ころ異なきとも其趣は則ち相同玄即ち情交の妙處よ  
玄て其肉交に關係あきは世人が口にこそ言いざれども少しく思慮そ  
れば明に自ら發明することあらん

男女の情交は肉交に離れて獨立すべしとの次第は前節ふ示したるが  
如く道理よ於ても事實よ於ても争ふ可らざるものなるに古人が一度  
び貞節など云へる教と立てより後世の學者が唯そぞ教の文字よ拘  
泥玄て之を墨守玄開け行く世に變通の道を知らず玄て古の教を世態  
に適應せしむるあとと勉めず貞節に對照するに姦亂の二字を以てし  
て貞あらざる者は必ず姦なり姦を防ぐの法は云々す可しとて其間に  
些少の餘裕と許さずますく以て兩生の關係を窮屈に玄て双方に其  
區域を限り男女相互に近づく可らず相互に語る可らず觸る可らず見  
る可らずとて人事の大小よ論あく一切うの主義を以て組織して數千

百年來既に其習慣を成し殊々徳川政治の太平二百五十餘年の其間に  
人心は次第に萎縮して都て用心堅固を旨とし男女は交際に就ても云  
はゞ臆病に玄て進で危かぶんよりも寧ろ退て大丈夫を踏まんとの氣  
風を釀し婦人をば人間交際の外に擯斥して有れども無きダ如きの地位  
又陷らしめたるは我日本國的一大不幸と云ふ可きものなり一度び  
此習俗の人心に徹したる以上は其習俗以て天下を支配し又天下を壓  
制して如何なる有力者と雖ども之を抵抗すると得べからず之と社會  
は壓制(Social oppression)と云ふ政府の法律は嚴あるふ似たるもの之と接  
するよと甚ざ稀なるが故に仮令へ壓制あるも尙不堪也可しと雖ども  
社會の壓制と朝々暮々人の心身の自由を犯して片時も止むことなき  
のみか其勢力は強大も亦法律の比に非ず男女近づく可らず男子は外  
を務先婦人は内に在る可しとは古教の大主義習俗由る所又玄て社

會は壓制之嚴にふの一主義と守りて毫も容捨する所あるふとなし之と實際に徵するよ古來日本國にて朋友と稱し交際と名くるものゝ唯男子の專にする所よ玄て婦人に玄て朋友ある者を見走朋友あらざれば交際もゐる可らず故に婦人にしそかりろめにも人ひと々接せるは唯親戚にして其交際も亦唯親戚の間ま音信と通するはみ稀に或は良人父兄に従く他人集合の席に出るふとあるも唯其席に在るのみよ玄て談笑せず飲食せ走怡も座末に男子ふ陪ばい玄て他の得意を傍観する者又異ありす蓋し社會は壓制に由りて素と内に在る可こた者が外に出るが故に其然るも亦怪あや玄むに足ら走及せきその家に在るときの有様は如何と尋るに婦人に朋友あうざれば來り訪ふ者もある可らず或は良人父兄の朋友が來訪するあとあるも素より其家の婦人女子と知らざれば面會めいくわいることもなし飯令たんごへ或は知るあとあるも男子の留主るすに客に面會めいくわいは

不都合ありと云ひ客も亦不都合なりと思ふて敢て面會めいくわいと求めず故に日本の婦人が内うちを治ささると云ふも其内うちあるものは一家の内の又其奥の内うちに玄て一半の表おもてへは力を及ぼすこと能はざる者の如し

斯る有様にして婦人の不愉快なるは固より論を俟ます怡も肉体の生ありて精神じんしゅれ生なく幾千年の久玄くわい全く奴隸どくねいの境界きぎょうに居ながら扱一方の快樂と失ふたる爲ために他の一方の快樂を増ますたるやと尋たずねるに決玄て然らず女生の不愉快は以て男生の愉快と助たするに足らざるのをか男子も亦共に快樂と得ざるふそ氣の毒ぬけあれ前に云へる如く兩生相引き相親あひしたしむの情は天賦てんぶに由來して人生至大至重しじゆうの快樂らくがく此中に存すると争ふ可らざるは事實あるに社會の壓制あつせい此至情しじゆうは勤はげましと逞たくまうすると得せし先ず男女相違しょりて親愛談笑の不自由なるは獨り女生の苦痛くどうにあらずして男生も亦共に苦痛なきと得ず若し之として自由なら玄め

ば双方の心情和暢して桃李春風に吹かれ百禽花々囀づるの極樂世界あるべきに社會の壓制は恰も嫉風妬雨にして此花を萎靡せしめ此鳴禽と驚ろかし却て春天の溫和に易るに盛夏嚴冬に酷烈を以てして内に鬱するの憂苦は既中に蒸さるゝが如く外に發するの不平と狂風は雪を捲ぎ如く以て社會の全面と無味無情の殺風景と變化たるハ國の不利不幸に非ずして何ぞや凡そ人事の大小輕重に論あく其政事たり商業たり又は學問宗教等の事なると問はず往々異同の爭論と生じ甚ざしきは公然ゝる敵對は慘狀を現はして人々相互に害するものさへゐるは世人の普く知る所ならん然るゝ其爭論敵對の裏面より窺ふく内實を視察すれば唯双方の情實相通達するを得ずして俗に所謂行違より生じるものなれど時に及んで之を停調をるとときは無事に救ふ可きもの多きも亦人の知る所あらん斯る大切な場合ふ於ても男女

の情交に依頼玄て之と活用し得ると得ざると其利害は辨と俟すして明なるべし蓋々西洋は文明諸國に於て交際の事は専ら婦人を司どる所となり飯食へ其身が躬うる社會の事務に當らざるも間接に男子の心事を調和して其事務と圓滑なうしめ行違は害惡少なきは争ふ可ざるの事實なり之を要するに一國の事務は一國人民の負擔を被る者ありと玄て文明諸國ふ於てハ男女の間に之と分擔玄我日本の如きは唯人民の一半たる男子のみの負擔たるが故ニ彼我國人の智德と正に同一様なりとするも其國を維持するの力は半數の相違あるものと知る可し

古人の言は世教と爲り世教は習俗と爲り習俗は社會の壓制と爲り以て我男女の交際を妨げて人間社會上の大利益と空うしよりとの次第は前段に之を陳べたりしが今又公けの社會を去りて人々私の家内ふ

入り此社會の壓制が如何なる影響を及ぼしたるやと尋るに其害惡言ふに忍びざるものあり夫婦の關係は人間畢生の關係にして其結約の時又當り双方相互に其人を擇で眞に本人の意に背くことなかる可凡は固より當然の事なれども男女近づく可らずとは社會壓制の嚴命として之に抵抗す可らず男女共に漸く成長して漸く可婚の年頃に達をきばいよくまもなく相遠ざかりて互々言語を交ふるにも何か左右又遠慮して自由ならざるのみか其姿を見ることさへ容易と許されず遂々双方ふ懸隔りて恰も別天地の境界を成すが故に扱縁談に臨んで其本人が相互に知らんとするも便りある可らずむかし封建比武家に於ては家筋のたえみ結婚するの風を成玄双方の醜美年齡智愚と問はず玄て奇々妙々なる夫婦を作りたるが如きハ之と例外として擋き世間又心ある父母は其子女に婚姻と強ふるあとあく仮令へ父母に見る所

を以て相手を擇びたりとて本人の本意と丁寧反覆に聞糺して後に始めて決定せるは良家ふ行はるゝ習慣あれども如何せん其當局者たる子女が平生他と知らざれば之を可否とするに由なし仮令へ或は竊に之と知るも可否と發言せるに甚だ躊躇するものゝ如し蓋し男女相知るは社會壓制の禁する所にして云はゞ知る可らざる者を知りたるが故あらんのを斯る有様にて世間往々不如意の婚と爲す者も少なうらず人生の不幸ふれより大なるはなし然らば則ち結婚意の如くなり亥者い果して幸福と全うして愉快なるやといふに尙不然りと答ると得走古聖人の教に夫婦有別と云へり我輩聖人の深意は掘り知らずと雖も後世は學者が此教を解釋して社會の人心に染みたる所と見れば別ありとは他人らしくすると云ふ意味にして夫婦の間は動もすれば親愛又過るが故ふ成る丈け互に疎縁にするが人倫の道なりと信ヒ之

に加ふゝ東方男尊女卑の悪弊を以て玄て良人が其妻と擡斥し疎外し又輕侮すること甚だし支那に一奇談ありむかし周の世の冀州に郤缺と云ふ人が困窮しそ農業しけるに其妻が畠中で辨當と進むるとき毎に敬ひ謹みて賓客を扱ふふ異あらす夫も亦正しく之を受けて狎れくしくしたるあとなしとて天下の一美談となり後世の人が想像しき之を圖に玄ふるものを今日一見するに一男子が傲然と玄て筵上に坐玄唯ひとり食ふ其傍に婦人ダ恭玄く地ふ跪づいて給仕する所の繪なり我輩この繪を見て驚かざるを得ず貧書生が貧れ餘りに農業するあらバ其辨當と遣ふにも夫婦親しく食を分て食ひ共ふ貧を與にして二人相娛玄むが如しあと云へば稍や人情又近うらんに左そあくして今圖面の趣にては此貧乏人が此貧窮に陥りながら尙ほ夫婦隔意の体と裝ふて苦しき中にも男尊女卑の精神を忘れざるの寓意と示す

のみにして唯可笑玄く又氣の毒ふよそ見ゆれども後の世の夫婦は是等の虛飾を脩徳の要と心得てますく其虛と擴張玄内實は左のみなふざるも傍より遽に其家風の外面を窺へば夫婦ハ親愛の朋友あらで疎縁なる主従ハ如く荆妻が朝夕恐れあがふ事へ奉つれば主公は之又接モるに其言葉さへ優しからずして双方の間に曾て愛情の溢るゝものと見す甚だしきは細君が病氣と聞いて其様子如何を尋る者ありて先良人は態と平氣は顔色と裝ひ詳々容体をも語らずして近日來何か痛所あるやに申して甚ゞ困却なりあと云ふ其語氣の冷淡無情なること秦人が越人比肥瘠と見るが如くなる者あり抑毛無賴の蛇蝎男子に非ざるより以上は人生の至情又於て誰れか常に我が妻と親愛せざる者あらんや況して其病氣は如に最も心配する所にして此と思ひ彼を憶ひ心緒乱きて麻の如くあるは事實に於て相違あしと雖ども其外面

に之を疎<sup>うそ</sup>みて無情<sup>なしこ</sup>を裝<sup>たそ</sup>ふこと斯の如くあると何ぞや唯社會<sup>しきくわい</sup>に壓制<sup>あつせい</sup>に迫<sup>せ</sup>まられて夫婦<sup>ほんしよく</sup>は本色<sup>ほんしき</sup>と現はし得ざるのみ川柳<sup>せんりう</sup>の句に二三丁出でから夫婦連れ<sup>ほんしよく連れ</sup>みると云ふもとあり元來男女の天賦<sup>てんぶ</sup>夫婦<sup>じよう</sup>の情に於ては散歩<sup>さんぽ</sup>するにも我家より相伴<sup>あひともな</sup>ふて門を出るころ本意なほんに今然らずして出門二三丁の間は態<sup>わざ</sup>と道<sup>みち</sup>を前後<sup>ぜんご</sup>ふ齟齬<sup>そき</sup>し約束<sup>そく</sup>の處に至て始て連れゆあるとは何故なるやと尋<sup>ね</sup>れば他なし家の近傍<sup>きんぱう</sup>頗<sup>まことに</sup>知<sup>し</sup>る人の多き往来<sup>わこう</sup>に夫婦連れは何分にもと答<sup>こた</sup>ふるふ過ぎず即ち此事情を説明<sup>せつめい</sup>すれば二三丁の後連れになるは夫婦の本色<sup>ほんしき</sup>にして二三丁に至るまで連れならざらしむるものゝ社會<sup>しゃくわい</sup>の壓制<sup>あつせい</sup>なりと云ふ可し以上<sup>い</sup>唯一<sup>ひと</sup>ニを記したるまでの事ふして尙ほ此外に家族<sup>かぞく</sup>の内狀を探<sup>さぐ</sup>れば上下貴賤<sup>きせん</sup>論なく家の組織<sup>そしき</sup>の一より十に至るまで兎角<sup>とくかく</sup>夫婦の間を疎縁<sup>そえん</sup>にするの風と成<sup>な</sup>玄<sup>げん</sup>其間柄<sup>あひだがら</sup>いよ／＼疎<sup>うそ</sup>あればいよ／＼之と家の美事と爲<sup>あ</sup>し主公嚴<sup>じゆこうげん</sup>な

り細君<sup>きんくん</sup>貞<sup>てい</sup>ありとて郷黨<sup>きょうとう</sup>朋友<sup>ひょうゆう</sup>親戚<sup>しんせき</sup>ふ至るまでも何となく之と稱贊<sup>しふうさん</sup>するの氣風<sup>きふう</sup>あるのみあらず近く家内<sup>いえうち</sup>と同居<sup>どうきょ</sup>する舅姑<sup>じゅうご</sup>の如きは最も其邊に注意<sup>ちゅうい</sup>にて一方には簪嫁<sup>はなめめ</sup>の睦<sup>むつま</sup>玄<sup>げん</sup>きを悦びあがト又一方<sup>うかん</sup>は其間<sup>そばん</sup>は疎縁<sup>そえん</sup>あらんふと祈り苟<sup>いがしく</sup>も双方の情に優<sup>ゆ</sup>玄<sup>げん</sup>きもれあれば大に之と悦ばず例へば簪<sup>はな</sup>が旅行<sup>りょこう</sup>玄<sup>げん</sup>て嫁<sup>よめ</sup>が別<sup>わかれ</sup>を惜<sup>お</sup>し<sup>み</sup>嫁<sup>よめ</sup>の病<sup>びやう</sup>中<sup>ちう</sup>簪<sup>はな</sup>が深切<sup>じんせつ</sup>ふ看病<sup>かんびやう</sup>ふどすれば餘り見苦<sup>みにく</sup>玄<sup>げん</sup>とて舅姑<sup>じゅうご</sup>の意に逆<sup>さか</sup>ふけ奇談<sup>きだん</sup>なきにあらず尙ほ其極端<sup>ききゆうたん</sup>に至りて舅姑<sup>じゅうご</sup>の極<sup>きわ</sup>て頑陋<sup>がんろ</sup>無情<sup>むじょう</sup>なる者<sup>もの</sup>も逢ふては唯<sup>いづれ</sup>様々<sup>ようよう</sup>の難題<sup>なんたい</sup>のと持出し陰<sup>いん</sup>陽<sup>よう</sup>に他の親愛<sup>しんあい</sup>の間柄<sup>あひだがら</sup>と遠くせんとして言ふに忍びざるの妨<sup>さまた</sup>少<sup>すくな</sup>を爲<sup>あ</sup>そ者<sup>もの</sup>あり我輩<sup>わが輩</sup>と以て評<sup>ひやう</sup>と下せば之を舅姑<sup>じゅうご</sup>の不人<sup>ふじん</sup>(inhumanity)と云はざると得ざるあり又古來今<sup>いま</sup>まで我日本國に之情死<sup>れい</sup>は例<sup>れい</sup>甚<sup>じん</sup>多<sup>い</sup>し抑<sup>おの</sup>も情死<sup>じょうし</sup>にも様々<sup>ようよう</sup>の種類<sup>しゆるゐ</sup>ありて或<sup>も</sup>は男女の一方<sup>うかん</sup>が所謂片思<sup>おもひ</sup>にてふがれ死ぬるあり或<sup>も</sup>は最愛<sup>さいあい</sup>の一方<sup>うかん</sup>が死して之に殉<sup>じゆん</sup>死<sup>し</sup>するあり何<sup>いつ</sup>

をの國にも往々ある變事なれども日本流は情死即ち俗に云ふ心中あるものに男女相思ふて親愛すること甚だ玄と雖ども或は父母親戚ふ詐され毛或は世間の口の端に妨げらるゝ等千差萬別の故障のた先に相思は情と逞うをるを得ず是に於てク双方相談の上生きて空しく苦しむよりも寧ろ共に死するよ若かずとの痴心より起る事にして西洋諸國と始め支那にも朝鮮又も此類の情死は甚ざ稀ありと云ふ他國に稀にして獨り日本ふ限りて多きと何ぞや日本の男女他に比して必ずしも無分別なるにはあらずと雖ども男女の關係に附き特に社會の壓制の甚ざ玄たの特に日本に限るの一證と玄て見るも可あらん我輩へ固より情死の愚と見て左袒する者に非ず痛く之を厭惡もと雖ども又思ひ直玄て人生の至情より觀察を下だし社會の壓制が今少しく寛大にもあらば年々歲々幾多の情死人中或は何事もあく存命して良家の

夫婦ふる可き機會も稀にあらんものをと之を思へば厭惡の中又自から憫然の感なきと得毛此邊より見れば社會の壓制は遂に不人の點にまで達玄さりと云ふ可し

社會の壓制の今日の如くなり玄其由來と尋きば前にも云へる如く古人の言が世教と爲りその世教が民心に染込みて習俗と爲り以て遂に動かす可らざるに至りしもとに玄て其根本ある古人の言は世人の品行を眞實清淨潔白ならしめんとの趣意なるに後世の今日に至りて果して古入は目的を達し得たるや否やと尋ねば我輩は氣の毒ながら其反對は惡結果を得たりと答へざるを得ず抑も男女の關係は我輩が毎度申したる通り常に相引き相近づかんとするの性質を備ふるもれにして如何ある教を施し如何なる法を設るも人爲の力ふて此性質と易へんとモるは天の誚さる所をも唯人文は次第よ開進せる

に従て其關係の次第ふ優美なると見る可きのみ古は野蠻人ハ専ら肉慾よ制せられて男女の間と云へば唯肉交のみの事と思ひしものが開け進む世の中に事務の次第ふ繁多なるければ男女の交際も亦繁多と致して双方の情を通玄親んで流れ走近づいて汚れ毛和樂洋々名狀す可らざるの際よ無限の妙味あるもの之を情交の發達と云ふ何乞の國の社會に於ても次第よ開明よ進むに従て當さに然る可き約束あるに不幸にして我日本國の世敎習俗ハ此約束ふ反玄近代化開明ふ至りても其關係よ就て尙ほ未だ肉交以上の處に着眼をると得ず單ふ肉交の濫りなふんあとと防禦するよ忙はしくしく双方の交際を窮屈ふする其有様ハ小兒のたゞに定めさる食物の制限法と以て既成の大人と束缚せんとするふ異あらず食慾の外に餘念あき小兒を養ふふは過食を禁ずるも當さに然る可き事なれども心身既に發達したる大人ふ於て

ハ其慾獨り食物に在らず五官の働く種々様々に玄て食物の如きは僅ふ諸慾中の一部分たるにも拘はらず傍より單に其過食と防がんとして窮窟なる法を立て一切の飲食に干涉して自由ならしめざるは大人を小兒視したる者にして到底忍耐すべき限にあらず今世敎習俗の作用も亦斯の如し男女肉交の濫りあると防がんとしく其結局は社會の壓制と爲り一切男女の交際に干涉玄く遂に其情交の優美なるものを破壊して社會の面を殺風景あらざめたるは開明の人を野蠻視したる所業にして壓制の失敬ある者と云ふ可し開明の男女を輕蔑玄たる者と云ふべ玄習慣の久玄き能く此壓制に堪れる者も少りと雖とも素より人生の天賦ふ背くことあれバ其惡果は何れの邊にう破裂せざるを得ず其一二を擧れば今世間の家内よ於く舅姑と聳嫁との間柄は十中の八九不味ならざるいなし或は能く舅姑ふ事へて孝なりなど稱す

る者なきに非ざれども多くは無理に辛抱して能く外面と裝ふ者よ過  
ぎ毛若しも聟嫁の私語を聞くの機會もあらば果して記者の言の欺り  
さるを發明すべ玄一家の内に老若男女の幾夫婦も雜居して起居眠食  
と共に玄あがら相互よ其幸福を妨少ずして快樂圓満なる者は百中一  
あるのみ他の九十九は所謂外面極樂内情地獄にて僞君子僞賢婦の  
巢窟なりと云ふも或い過言にあらざる可し畢竟この男女の生來頑陋  
あるに非す或は相應の教育とも受けて心事の美なる者もありと雖モ  
も唯其情と矯免て眞實と隠し知らず識らずの際に双方相互の自由を  
妨少他と苦しめて自身も亦苦しみ徒々不愉快ある歲月と消せるのミ  
誠に數理に叶ひざる次第あれども社會の壓制を制せられて自から運動  
と逞うすること能はざる者なり

家内既ニ快樂少しおし然らを則ち其戸外の交際の如何と尋るに婦人の

外出は素より社會壓制せ禁する所なれば男子の外ふ出でて交る所の  
者は必ず男子に限り其交際の殺風景なると本に接するに石を以てす  
るが如く木片石塊碌々としく色も艶もある可らず其最上の快樂は沈  
深理窟を語るにあらざれば放食鯨飲醉て笑ひ醉て泣た醉て罵るに過  
ぎず偶々婦人に逢ふことあるも之又接するに男子自家の交際法と用  
ひて動もすれを女生れ忌諱に觸れて憚るを知らず之と男子の磊落と  
稱し或は心と用ひて謹慎すれば言はず笑はず枯木の屹立するが如く  
あるが故に婦人は方に於ても固より之に近づくに道あく寥しく黙玄  
て首を垂れ唯他は白眼に看されざると是れ祈るのみ之と禮儀正玄き  
男女は交際と云ふ

右は如く家に在ても面白くらず戸外に出でても亦樂まず男女情交の  
線路ハ殆んぞ斷絶して之と通するの方便あきものゝ如し然りと雖モ

も人生眞の本石に非ざれば何れの處にか鬱情發散の道を求めるを得ず是に於てう富貴の男子は内外の姿を養ひ又ハ家よ妓と聘して快樂と取る者あり下りて下流に至りてい青樓に登り花柳よ酔ひ人生の想像にあらん限りの醜行と犯して自から遣る者あり抑も尋常の觀察を以て是等の不品行と評すれば耻と知りざる輕薄男子が色を貪ほるものありと云ふべきに似たれども我輩は其状情を酌量して聊か恕する所のものあきと得ず其次第は凡ろ人生として絶倫の氣力体力あるに非ざるより以下は斯る無情は日本社會に居り其品行を高尚優美にして能く自ら樂む者あらんや唯樂しまざるが故ニ其行樂の道と求め一線の血路と蓄妾聘妓の醜行ニ在るのと其醜行眞ニ醜なりと云ふと雖ども單ニ肉慾を慰むるのみの目的に非ず其實ニ別室妾宅なり花街柳巷なり世教習俗外の別乾坤にして怡も社會の壓制を免かる可

き樂地なるが故に鄙劣ながらも之を利用して情交の慟を満足せしむる者なれば強ち惡む可きに非ず寧ろ憐む可き者にみるあき之を喻へば平生無理に禁酒を命ぜられたる者が偶然酒樓に登るの機會を得て忽ち泥酔するに異ならず其泥酔ハ厭ふ可しと雖ども其内情ニ亦憐むべし故に今の男子は醜行を見れば實に驚く可きものも多しと雖ども其平生男女の交際に曾て情交の優美あるよ逢はず終歲無情無味の虛節に束縛せらるゝが故ふ一旦その繩を脱するときは嚴重の極度より不取締の極度に移るもれふして其趣は大禮服と脱衣で直ちに裸体の醜を露はす者に等玄寶と禮服以下裸体以上に幾段に服飾ある可きや千差萬別美衣の種類限りなし即ち男女は交際にすれば無限の情交を逞うを可き處あれども社會の壓制は則ち之を許さずして一年三百六十日家に居ても外に出でても必ず大禮服と限るが故ニ人生これよ堪

ゆるおと能は走遂に之を脱して裸体の醜に陥るのみ  
又日本は婦女子が演劇と好む甚だしく或へ非憂喜

又日本は婦女子が演劇と好むと甚だしく或は俳優藝人と愛し直ふ之に近づかざるも竊に之を品評して婦人社會の談柄とするが如たは甚ば相濟まざる事ありとて之と怒る者多り成るほど婦人が演劇などに浮うれて身と忘るゝと宣しからず猶や男子が相撲よ熱心して夢中するが如く又其婦人が俳優藝人に近づくは男子が妓女よ近づくが如く何れも美談にはあらずと雖ども如何せん婦人の身も亦木石よほらす肉慾の談へ遠く離れて度外に在りともるも扱うの情と慰免んとしく今は社會ふ何れ方便あるや男子へ既に其方便あきに苦しんで遁路とは又男尊女卑とて別に一種の壓力ありて婦人の醜行尙ほ未だ男子に及ばず唯僅に演劇と見物して遙に男生の空氣ふ浴衣一步を進めて近

く俳優藝人と共に笑語するに過ぎず我輩は此様を見て怒るゝも非ず  
咎るにもあらず當局の婦女子が社會の壓制ふ制せられて其天賦の情  
を慰るに由なく遂に其通路を演劇俳優等に求めたりと思へば唯憐む  
ゝ堪るゝのみ

前條の次第にて男女交際の事に付き古人の言は漫々間然と可らず其時代に在てハ自から功能もありしことならんと雖ども後世の學者が變通の道と知らずして唯その言を墨守し次第に窮窟ある法を定めて一切情交は運動と許さるよりして折角の敷かるも依て以て社會の品行を正し足りざるのみウ其窮窟あるがために却て激して心波情海の破堤と促し男女の品行をして表面嚴格の極より内實不取締の極又至り玄めたるが如きは世教世に益なく玄て却て人ハ幸福と奪去りたるものと云ふ可玄遺憾又堪へざる次第あり今の世に醜行男子多し

或は婦女子にてモ時と玄ては俳優藝人に戯るゝなどとて譏を招く者ありと雖ども苟も普通の人心あるより以上は自から品行は醜美を知らざる者なし又故さらに世に譏らるゝを悦ぶ者もゐる可らず若しも彼の社會の壓制が今少しく緩かにしそく兩生の交際と自由ならしめ、双方の天然に引く者を引かしめ、近づく者と近づかしめたならば恰も積極と消極と抱合満足して社會は全面は優美開雅は瑞雲を以て蔽ひるゝは春に逢ひ以て兩生の情交と高尙に昇ふしめて復た他の醜行に遁路を求るにも及むず高尙の地々悠々として高尙の樂玄みを樂玄む可たりものをと我輩は毎々之ふ思及ばして遺憾を感じする所あり即ち此有様と形容せるゆゑに重ねて前節の比喩と引用すきば其交際の嚴格あること大禮服と服して虛飾と裝ふが如くあらず又裸体の醜と以て人に厭へるゝにもあらず其兩間正に袴羽織と着用し時々或は便服を服する

が如く禮儀正しき中にも自ら打解りて情を通じるの便よ乏しからざるものと見て文明男女の交際い凡そ此邊も在て存れる事と知る可知し我輩が今の日本社會に向て單に德義の點より冀望する所も唯この一事に在るのみ左をば今我國の男女をして其鬱憂殺風景け境界と脫玄、其醜体不品行に陥るの悪弊と免かれ、其天與の幸福と全うして文明開化の春風よ快樂を得せしめんとするふと千古の禍根たる社會の壓制と其根本より顛覆玄て男女兩生の交際と自由なふしめ必ず玄も文學技術の益友と求る必ず理窟のみを云ふに及ばず花鳥風月茶話の會唱歌管絃立食の宴其事柄の大小輕重有用無用を問はず只ふゝろれき多く往來集會して談笑遊戯相近づて相見るの仕組と設るより外に手段ある可らず斯く相互に親近する其際もは双方の情感自ら相通じく知らを識らず實際に女の男も學び男は女に教へられて有形に知見

を増し無形ふ徳義を進め居家處世の百事豫期せざる處に大利益ある可きは又より疑ひと容れざる所あり

以上は我輩の持論は志て必ず之を天下の男女に獎勵せんと欲する所のものなきも例の古學者流の臆病心を以て此事甚だ危険ありと云ふ者もゐる可矣如何ふも其言の如く萬全は我輩の保證する所にあらば火を見たらば火事と思ひ人を見たらば賊と思へとは古き俗諺に玄て或は當るともあらんあれども去りとて火は利用せざるを得ず人には面接せざるを得ず火事なり賊なりとて一切これを近づけざるが如きは人間世界に行はる可き事に非ず男女の交際も亦斯の如し時又或ひ危険事もある可しと雖も之よ躊躇すれば際限ある可らず一二の危きを恐れて千古の宿弊を捨てたゞく無數の幸福を空うするが如きは夏の時節に一二の溺死人あるとく水泳の危険を喋々として一切

れを禁止するに異あらぞ我輩は感服せざる所なり今又一步を譲りて男女の交際は果して不用心にして之がために苦々しき事の生ずると見るとせんか然らば則ち古來の世教習俗と保存して今のまゝに任ず可だや、之に任みて古來如何なる成跡を得ざるや我輩の所見ふては世教習俗以て徒々人の情を痛まし先有生の男女の痛苦鬱憂ふ堪へずして小人は陽に大に破裂して醜行を犯し君子と陰に竊に手段と運らして自ら慰めたるにあらずや古學流は君子社會も往々其人なるを見る可矣世教依頼するに足らざるなり左れば我輩の男女交際と獎勵して特に其情交の發達を促すは其微意只兩生の品行と高尚の地位に進めんとするよ在るものあれを枉めて古學論ふ從はんとするも得べからず、愛相も盡き果てたり社會の壓制汝の命に服従するが如きぞ我輩天下の男女と共に敢て拒む所なり

(畢)

